

きらり企業テク



災害時に避難所などで使う簡易トイレ=大塚包装工業提供

いつ起つともわからない地震や豪雨。自社の技術を生かし、被災地や避難所で快適に過ごせる製品が作れないか――。

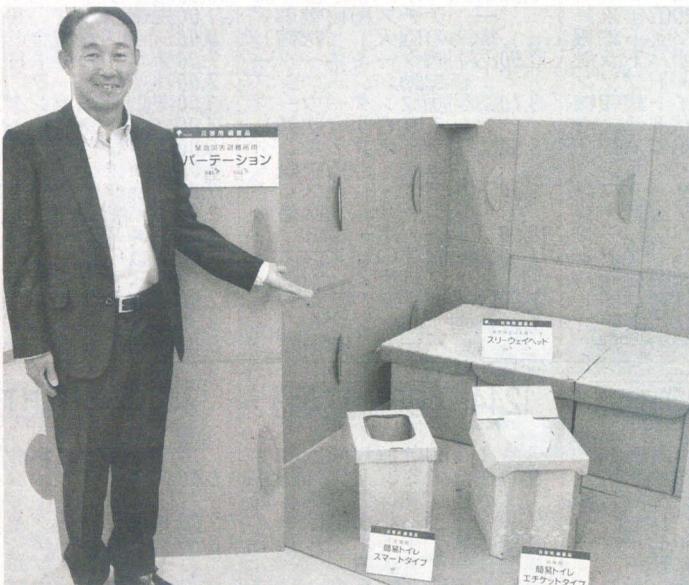
そんな思いを込め、災害時に使う段ボール製の簡易トイレやベッドを開発し、備蓄品シリーズ「トワレス」のブランドで2020年から販売している。食品や医薬品のパッケージやトイレ製造が主な業務だが、東日本大震災以降、全国で防災意識が高まつたことが開発への後押しとなつた。

簡易トイレ 厚紙の力

大塚包装工業

徳島県鳴門市

災害用備蓄品「トワレス」



新規事業リーダーの北浦浩さん(54)ら約10人は17年、新商品の開発を託された。しかし、備蓄品の種類は幅広い。何に挑戦するのか、頭を抱えた。2年以上かけ、県内外の自治体などに聞き取りし、ニーズを探つた。すると「被災地ではトイレの確保が困る」ことがわかつた。コ

ンパクトで、使い勝手や組み立てやすさを求める意見も目立つた。試行錯誤を繰り返し、50個ほどの簡易トイレを作つた。メンバーが使って耐久性も確認し、自治体にも意見を聞いた。「他の社の従来品とは違う簡易トイレを作りたかった」という。

完成したトイレは30秒で組み立てられ、約30回使える。既存製品と違うのは、便座の穴の下にたまつて排せつ物を隠すため、可動式の紙を取り付けた

「自社の技術力で社会に貢献したい」と語る長浜副社長(徳島県鳴門市で)

【概要】 1912年、「長浜紙函店」として創立。足袋やワカメなどを入れる箱の製造から始まり、62年に大塚グループの一員に。78年には大塚包装工業と社名を改め、食品や医薬品用に紙やプラスチックのパッケージを作っている。資本金5800万円。従業員約350人。

同社の長浜正視副社長(57)は「災害が起つても、トワレスが健康面や衛生面で被災者の役に立つてくれれば」と話した。

(徳島支局 山根彩花)

点だ。お菓子の台紙などに使う独自のはつ水加工を応用し、紙の表面に施した。排せつ物が紙の上を滑つて、穴の下に落ちる仕組みとなつていて。水にも耐えられるよう、保管時に入れる袋は防水仕様だ。

販売すると、自治体から「排せつ物をためないトイレもほしい」「ベッドやパーテーションも」と要望が相次いだ。そこで、1回ごとに排せつ物を入れる袋を交換するトイレも製作。ベッドやパーテーションには、医薬品の外箱に使う抗菌・抗ウイルス加工を施した。特にベッドは、机や椅子にも形を変えられるよう構造を工夫した。

「人々を永遠にレスキュー(救護)する」との願いを込めて「トワレス」と命名された。今、避難所開設用の備品にと、県内外の自治体などから注文があるという。どんな人でも使いやすい製品として、トイレやベッドが、県の「とくしまユニアーサルデザインによるまちづくり賞」に選ばれた。